

平成二十五年 度

九州歯科大学歯学部大学院入学式

歯学科第六十五回、

口腔保健学科第四回、

大学院第四十八回入学式

式辞

本日、九州歯科大学に、希望に満ちあふれた新入生の皆さんを迎えることができ、この上もない喜びを感じております。歯学科六十五期生、口腔保健学科四期生、大学院歯学研究科四十八期生の皆さんには、九州歯科大学の教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へという言葉贈ります。

また、これまでの成長を見守ってこられた保護者の皆さまもさぞかしお喜びのことと存じます。あらためてお祝いを申し上げます。

本日の入学式には、小川洋福岡県知事、松本國寛福岡県議会議長をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

九州歯科大学は、全国に二十九校あります歯科大学および歯学部の中で、唯一の公立大学として、古い歴史と伝統、ならびに輝かしい実績

を持って、歯科医学および歯科医療の発展に大きく貢献してまいりました。九州歯科大学は、平成二十六年五月十一日をもって創立百周年を迎えます。それに先んじて、平成二十五年一月一日に、伝統ある九州歯科大学の英語表記を Kyushu Dental College から Kyushu Dental University に変更しました。そして、今年の三月、ミャンマーにある University of Dental Medicine、Yangon および University of Dental Medicine、Mandalay の二大学と連携協定を結びました。

これからは、公立大学という特色を活かした教育・研究・臨床活動を展開していくとともに、九州歯科大学が歯学部および大学院での教育研究活動を通じ、アジア諸国、さらには、欧米の歯科大学および歯学部と連携し、世界各国の学生および教職員との交流を深め、グローバルな視点での教育を展開していくことをお伝えします。

公立大学法人九州歯科大学は、設置団体である福岡県から提示された中期目標を受けて、平成二十四年度から二十九年度にかけて、あらたな中期計画のもとで、さらなる発展を目指して活動しています。そのなかで「口腔医学の総合

大学」を謳い上げ、歯学科および口腔保健学科における教育の充実を中期計画の主軸に掲げています。本日、入学した両学科の学生諸君が、このような環境のもとで教育を受け、高い志をもった歯科医療人として社会に巣立つことができるよう教職員一丸となって取り組むことをお約束します。

一方、医学および歯科医学教育の現場では、専門的職業人、すなわちプロフェッションの育成を重要視した教育改編が進められています。本学でも、先に述べた次期中期計画で、歯科医療人としてのプロフェッショナルリズムの涵養を掲げ、ヒューマニズムの精神とともに人に尽くすという利他主義をわきまえた歯科医療人の育成を目指し、教育改編を継続してまいります。

さて、このようなお話しをしたうえで、本日、入学した新入生諸君にお願いです。諸君は、将来歯科医療人として、歯科医療を通して社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本学に入学したと信じています。これから先、九州歯科大学における大学生活において、自らを律した、すなわち自律した大学生活を送り、プロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に自分の日々の勉

強に励んでいただきたいと思います。

次に、大学院に入学する学生諸君に申し上げます。どのような学問領域であっても、それを支えているのは研究です。今後、歯学研究科における大学院生として研究生活を送っていくなかで、歯科医学に貢献する研究者として、生命科学における高度な研究能力ならびにその基礎となる豊かな学識を養ってください。平成二十四年度、文部科学省の大学教育改革支援事業である「大学間連携共同教育推進事業」において、九州歯科大学が代表校となり、医学・歯学・工学連携プロジェクト「地域連携による『ものづくり』継承支援人材育成協働プログラム」が選定されました。この教育推進事業を進めるにあたり、北九州地区にある九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学の四大学が連携協定を結び、共同研究を重層的に展開して、新たな学際領域を開拓していきます。九州歯科大学としては、この医歯工学連携を通じて、より充実した研究環境の整備に努め、二十一世紀の歯科医学を背負う大学院生諸君の研究が、これまで以上に幅広いものとなるよう、支援していくつもりです。諸君には、国内外を問わず、歯科医学および歯科医療界のフロント

ランナーとして、活躍していただくことを切に願っています。

本学の歯学部および大学院に入学した皆さんは、今日から長い歴史を持つ九州歯科大学の一員として、研鑽を重ね、次世代に向けて新たな伝統を作っていくこととなります。その道は決して平坦なものばかりではありません。そのことを自覚したうえで、輝かしい未来が皆さんを待っているということを感じて、充実した学生生活を送られますことを心から願っています。

むすびに、入学生全員に、脳科学者の養老猛司氏の著作から、「知的労働というのは、重荷を背負うことです。物を考えるということは決して楽なことじゃないよということを教えているつもりです。それでも、学問について多くの学生が、楽をしたいと思っているのであれば、そこにはやはり、もうどうしようもない壁がある。」という一節を紹介し、明日からの学習、研究に、前向きに、そして、自ら考え、すべてのことに主体的に取り組む学生となることを心から念願して、私の式辞といたします。

平成二十五年四月二日

九州歯科大学

学長 西原達次